

INAKA to IINAKA



# いなかと♡ いいなか



地域活性化のための  
つながりのつくり方



INAKA to IINAKA

# いなかと♡いいなか

## 観光でも定住でもない、農村地域の担い手となる、 そんないいなかありませんか？

地方における課題の多くに人材不足が挙げられます。  
このパンフレットでは、農村地域の担い手になる地域外の人との関わり方を県内の事例に沿って紹介しています。  
これからの地域づくりの参考に読み進めていただければ幸いです。

### 地域に様々なカタチで関わりを持つ人= 関係人口 この関係人口を多くすることがPOINT!

#### 農村地域の課題

- 高齢化や人材不足で地域の維持が困難
- 地域の魅力発信ができていない
- 農村を訪れる人がいない

- ・ 田植えの時期だけ手伝いが欲しい
- ・ 地元の祭りで若い衆がいない



ここが  
POINT

地域の課題に対して、  
農村地域に興味がある人との  
関わりを築く事が大切

・ 情報発信

・ 興味・関心  
・ 行動

#### 農村地域に興味がある人たち

- 都心の若者を中心に、新たな生活スタイルとして農村へ行き交う「田園回帰」への関心
- 働き方の変化による、地方への興味関心

- ・ ゆったりとした時間を過ごしたい
- ・ 自分のスキルを地方で活かしてみたい



ある地域に、継続的に様々な形で関わる人のことを「関係人口」といいます。例えば、「観光以上移住未満」と言われることが多いです。仕事に関係していたり、イベントや企画の際のお手伝いなど、関わり方は様々です。

### 関係人口といっても、地域との関わり方はさまざまです。

#### 〈リピート観光層〉

特定地域に、年に数回の訪問を行い、行きつけの宿や店がある。あくまでも観光として「外からのお客さん」としての関わり。



#### 〈地域イベント参加層〉

きっかけとなる行事や祭があり、招待されたタイミングでは参加するが、自ら主体的な行動にまではならない。



#### 〈地域交流層〉

地域の人たちとこまめに連絡を取り、行事や祭に限らず地域維持活動に積極的に参加する。



観光

移住  
定住

薄い

関わり方

濃い

POINT

地域ごとに関わり方や取り組み方は様々です。「関係人口」を3つのタイプに分類し「この地域に関わってくれている人たちはどんな人たちだろう」「自分たちは、どういう人に関わってほしいんだろう」と整理してみると、次にやるべきことが見えてくるかもしれません。

## Contents

P.02	>	01	リピート観光層の獲得	白河市 野出島地区
P.03	>	02	地域イベント参加層の獲得	喜多方市 本木・早稲谷地区
P.04	>	03	地域交流層の獲得	双葉郡 葛尾村
P.05/06	>	04	関係人口づくりの実例	いわき市 田人町 入旅人地区

各事例に  
Let's go!



# 01

## リピート観光層の獲得



白河市 野出島(のでじま)地区

野出島地域は、福島県南、白河市東地区に位置し、田園・果樹園の広がる自然豊かな農村です。新白河駅からは車で約30分とアクセスしやすいエリアです。



天気がいいと那須高原まで見渡せる、広々とした田園風景が魅力です。

課題

# 人が集まる きっかけがない

外部から人が来るきっかけがなく、観光や移住につながっていませんでした。地域の魅力を作り、興味を持ってもらうことが必要でした。



取り組み  
内容

## 気軽に訪問できる 環境づくりと、 地域の魅力発信



野出島地区では、外部に発信できる地域の魅力を改めて発掘し、開発することを行ってきました。歴史のある狛犬をMAPにして観光につなげたり、菜の花やそばを用いた企画、古民家を改装して宿泊できるように活用、など外部の人が気軽に訪問できる環境作りを行ってきました。また、うどんやなたね油などの独自商品の開発も行い、外部に向けた発信も行っています。



狛犬ツアーが生まれ、多くの人が訪れます。



## 繰り返し訪問してくれる 人も増え、そこから短期間 のお試し移住につながった例も

季節ごとのイベントでは、近隣含め多くの人が繰り返し参加するようになりました。また、1週間単位で宿泊利用できる「お試し住宅」をご利用いただいた方が実際に移住となった事例も生まれています。



改装した古民家を1週間単位で、1,000円/日で貸し出しています。大学生が合宿で使ったり、移住検討している人がお試しとして利用したりしています。



The  
voice

from the local people



地域に広がっていた耕作放棄地を再生させることからスタートし、10年近くかけて、ある程度定期的なイベントや外部からの訪問受け入れを実現することができました。今後は、インターネットを使った発信など、より積極的に取り組んでいきたいと考えています。

本宮さん



Point

地元の人にとって  
当たり前の風景が、外部の人からは新鮮に見えることも!!  
改めて地域の歴史や風景を見直してみるのも大事な  
ポイントです。

# 02

## 地域イベント参加層の獲得



喜多方市 本木・早稲谷(もとき・わседに)地区  
喜多方市の西部、旧山都(やまと)町に位置し、270年にわたって守られてきた堰と棚田があります。磐越自動車道会津坂下ICから車で約40分のところにあります。



270年以上守られてきた棚田が広がります。

課題

# 高齢化による 人手不足

地域の高齢化に伴い、堰の維持管理<sup>\*</sup>ができなくなる危機感がありました。

<sup>\*</sup>秋冬の間に溜まる落ち葉などを取り除く堰浚い(せきさらい)



取り組み内容

## 人手不足を補うため、地域の課題をイベントへ

水路と棚田を維持していくため、外部の人を呼ぶイベントとして堰浚いを行うことに！約20年前から開始し、毎年5月上旬に堰さらいを行う際には、30名以上が訪問し、共同作業を行います。知り合いへの声かけからはじめ、参加者の家族や知人へと口コミで広がっていています。



秋冬で多く積もってしまう落ち葉や枯れ枝などを共同作業できれいにします。

## 堰さらい企画を通じた 地域住民との触れ合いから、 繰り返しの参加へ

一緒にご飯を食べたり、作業の合間の山菜採りなどの何気ない交流が好評で、毎年のように堰さらいに参加してくれる人も多く、夏や秋に訪問してくれる人もいます。



参加者の声

**縁**があって堰浚いに参加しました。用意されている作業ではなく、地味だけど大事な作業と一緒に参加できる点が嬉しいです。作業前後の交流や会話の一つ一つも楽しく、学び、楽しさ、そして地域を守る責任感の3つが揃っているのが続けていけるポイントだと感じています。また、コロナが落ち着いたたら一緒に堰浚いをしたいと思っています。(神奈川県 弘重さん)

**父**親が現地の方と知り合いで、ちょうどテレビで水路について観た後だったので参加しようと思いました。堰を浚うことで水路が綺麗になることにやりがいを感じます。作業中に地元の方が山菜のことなど教えてくれるのも楽しいです。また、夜に一緒にご飯を食べて話すのも楽しみの一つです。農作業の裏側に関わることができるというのは貴重な体験で、地域のためになっているというのが嬉しいと思っています。(埼玉県 戎谷さん)

The voice

from the local people



2020年はコロナのこともあり実施できませんでしたが、それまでは毎年30名以上の人がボランティアとして堰浚いに参加してくれていました。もちろん地域での後継者不足は大きな課題です。しかし、ボランティアの人たちに移住までは求めていません。そういった方々の生活のうち、1%を貸していただいて水路と棚田を維持できれば、今は外に出ている人が帰ってくるまで待つこともできます。うまく外部の力を借りながら地域として維持していくというやり方ももっと広がっていくといいと思います。参加者に向けての発信はそこまで積極的には行っていません。自分たちで続けられる範囲で、無理せずに行っています。

浅見さん

Point

外部から人を呼ぶためのイベントを新しく作るのではなく、実際に地元で行っている当たり前の作業を都市部の人に手伝ってもらうことが、長く続いているポイントです。

# 03

## 地域交流層の獲得



### 双葉郡 葛尾(かつらお)村

葛尾村は、双葉郡の北部に位置し、北東に浪江町、北西に二本松市、西南に田村市と隣接しています。阿武隈山系に属し、天王山をはじめとして多くの山々に囲まれています。郡山市内から車で60分ほどです。



地域を良くしていくために、活発な議論や交流が日々行われています。

課題

# 地域活性のための新しいアイデアや若い力が足りていない

震災前から減り続け1,500人ほどだった人口は、避難指示解除後には100人ほどまで減りました。いかに、いろいろな人に少しずつでも関わりを持ってもらえるか、が必要でした。



取り組み内容

## 外部の人に 関わってもらいながら、 収益につながる取り組みを



葛尾村には多くの資源があります。動画で村の魅力を発信したり、新しい企画や商品を作ってインターネット中心に販売したり、外部の人の力を借りて積極的な活動を行っています。



村外の人たちにも田植えから稲刈りまで協力してもらいました。



葛尾村産米使用日本酒「でれすけ」

参加者の声

**友**人と田植えに参加してから何度か訪問し、インターンとして関わるようになりました。地域の人たちとの関係も深くなり、ここが自分にとっての第二の故郷のように感じています。これから他の地域で働くことがあっても、葛尾村は帰って来れる場所だと思います。(千葉県 余田さん)

## これまで累計で 2,000名の人たちに 関わってもらいました



農作業等の生活の知恵をアーカイブし誰でもマネできるようにしたり、気軽に昔から住む住民に聞ける環境をつくることで外部からでも関わりやすいような取組をしています。

**映**像に関するお仕事から葛尾村に関わらせていただいています。自分の持つスキルを提供したい人は多くいます。人と人との関係から新しいことが生まれていくのが楽しみです。地域の方々から楽しそうなことを継続的に発信することで、声をかけてくれる人は出てきます。(福島県須賀川市 大岡さん)



The voice

from the local people



大学生インターンやクリエイター、様々なスキルを持った方など多くの方々が葛尾村に関与いただき、とても嬉しく思っています。これからも村外の方に支えていただきながら、この地域の良さを発信し残していきたいと思います。

下枝さん



Point

外部の人の力を積極的に借りて、地域内の人材だけではできないことに取り組むことで、地域の活力も生まれ、ファンも増えていきます。

# 04

## 関係人口づくりの実例



いわき市 田人町入旅人(いりたびうと)地区

いわき市の南西部にある田人町。その田人町の一地区が入旅人地区です。勿来ICから車で15分ほど、東京からも2時間ほどで到着します。



いわき市街からもアクセスの良い山あいの中で、のどかな風景が広がっています。

課題

# これからも地域を維持していくために外部の力を借りていきたいが、どうしていいかわからない

取り組み内容

## 他地域の関係人口づくりの取り組みを参考に、地域の魅力の見直しから発信まで挑戦

震災後、国道289号線沿いに地元野菜の直売所を立ち上げました。週末ですが、一日200人前後の人が来店してもらっています。直売所の取り組み自体は充実感を感じている一方で、一緒に地域作りをしていただける外部の方を増やしていきたいと課題を持っていました。

旅人ヤさい館289



野菜の直売所については数年前から取り組み、訪れる人も増えては来ていますが、高齢化の進む地域で一緒に地域のために何かしてくれる人を増やすことはできておらず、課題に感じていました。



毎週末県外から訪れてくれる人もいて、地域にとっても欠かせない大切な場所になっています。

### STEP 01

## 入旅人の魅力とは？



地域の魅力を見直す上で、地域外の人にも参加していただき、一緒に地域を見て回りました。森林や水といった資源はもちろんですが、入旅人を訪れる人たちがくつろげるような環境と人柄も大事な魅力だと再確認することができました。



### STEP 02

## 外部コーディネーター進行の話し合い

話し合いは3回にわたって実施。1回あたり90分ほどの時間を取り、1週間おきに話し合いを行いました。



話し合いではこんな意見がありました

- 親子連れで来てもらえるようにしたい
- こんにゃく作りやそば作りも一緒にやりたい
- 一年に何回か、親戚のように来てもらえるように
- 毎年楽しめるようにもみじを植えようか



外部コーディネーターが進行することで...

- これまでの地域内だけの話し合いよりも深い内容について話し合うことができた
- 地域内の人とは違う視点からの意見を聞くことができた

1回目

地域の現状と魅力について

2回目

地域の目指す将来像、今後関わってほしい人について

3回目

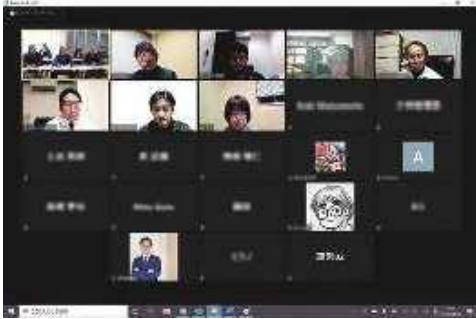
1-2回目の話し合いを踏まえて、人を呼ぶ企画について



## STEP 03

# オンラインでのセミナーを開催

平日仕事をしている方でも参加しやすい金曜日の18時30分から、ウェブ会議システムを使ってオンラインセミナーを開催。プロのパーソナリティーの進行で、STEP 02の話し合いで出た課題や地域の魅力をセミナー参加者へ伝え、STEP 04の交流イベントへの参加呼びかけを行いました。



県内・県外から10名以上の方に参加いただきました。入旅人地区のことを知らなかった人も半数近くで、新しい地域情報の発信にチャレンジできた機会となりました。



### 当日の参加者の居住地

- 東京都 ……3名
- 神奈川県 ……1名
- 千葉県 ……2名
- 宮城県 ……1名
- 三重県 ……1名
- 福島県内 ……7名

## STEP 04

# オンラインの交流イベントで地域の魅力を発信

当初は人を招いたツアーを検討していましたが、コロナ感染拡大防止の観点から、インターネットを使ったオンライン交流イベントを行うことにしました。



動画によるバーチャルツアー、地域の食材を使った簡単クッキング、木工ワークショップ、と盛り沢山の2時間はあっという間に過ぎました。



### 参加者の声

**キ** クイモが美味しかったし、珍しい食材なので特に印象に残りました。

**木** 工でのワークショップは初めてでした。でも木の香りがとてもいいです。説明も温かみがあって楽しかったです。

**過** 去も同じようなイベントに参加したことがありますが、事前に食材などが準備されて一緒に参加できるようなスタイルは初めてでした。それがとても今風で楽しかったです。

**こ** れまでは全く知らない地域でしたが、入り口が少し見えたような感じで、機会があれば実際に訪れてみたいと思いました。

## STEP 05

# 外部の方と“いいなか”づくり

オンラインセミナーや交流イベントをきっかけとして、地域を未来へつないでいくため、地域と外部の方が互いに協力し助け合える関係に発展させることができました。

### The voice

from the local people



緑川さん

全てが初めての試みでしたが、いろいろな人にサポートいただき、楽しくできました。改めて地域の良さを見直すことができました。地域活性化のために更に精進してまいります。今度は、参加された皆さんと実際に交流して、「いいなか」を作っていきたいと思います。



### Point

外部の人・若い人の力を借りることで、地域の魅力を再確認し、インターネットを使った情報発信や新たなつながりをつくることができました。





INAKA to IINAKA



お問い合わせ

福島県農林水産部 農村振興課

TEL.024-521-7416

2021.3 発行